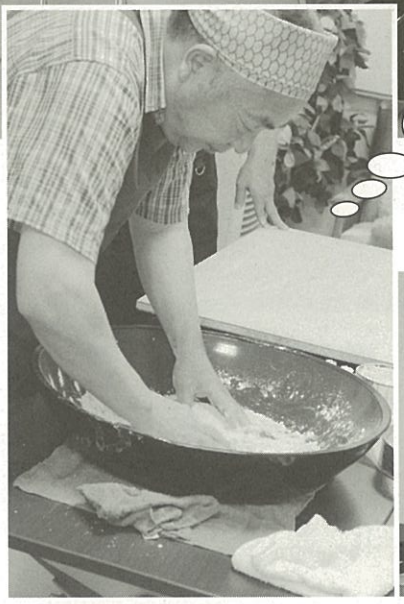
写真の町
しがしかわ 社協だより

第121号
平成30年1月1日

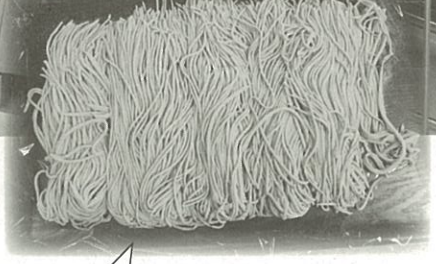
発　行
社会福祉法人
東川町社会福祉協議会
〒071-1423
上川郡東川町東町1丁目7番14号
高齢者いきいきセンター内
電話（0166）82-7505
FAX（0166）82-7301

東川町社会福祉協議会は、子どもから高齢者までみんなが笑顔で過ごせる、そんな福祉の町づくりを目指します。

毎年恒例の「そば打ち」がいきいきセンターで行なわれました!!
見事な手さばきでそば打ちが披露され、皆さん声も出さずに見入っていました!!
お昼に皆さんでおいしく頂きました!!　…また食べたいなぁ…(・_・)



おいしいおそばになりますように…。



とてもきれいな手打ちそば！
北海道産のそば粉を使った二八そばです！
「すごくおいしかった！」と皆さん喜んでいました。
村端さん、金巻さん、ありがとうございました！

この広報誌は赤い羽根共同募金会から配分を受け発行しています。

新年のご挨拶

東川町社会福祉協議会　会長　桑　原　良　一

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい平成30年の新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、日頃より地域福祉の推進にご支援ご協力を賜り深く感謝とお礼を申し上げます。

さて、急速に進む人口減少、超高齢化の進展と社会福祉を取り巻く環境は、経済情勢の悪化による社会不安の増加や、核家族化の進行等で生活不安が高まり、住民の地域生活・家庭生活に新たな問題が発生する等急速に変化しています。

地域社会においても、地域の相互扶助機能が低下するとともに、住民相互の社会的つながりや連帯感が希薄化する等で、高齢者や障害者の介護といった福祉課題だけではなく、孤立死の問題、高齢者や児童への虐待、悪徳商法被害、防災及び災害時の要援護者等、地域課題や生活課題へのきめ細かな支援活動が求められています。

こうした状況の中で、国では団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年を見据え、介護保険制度等の改正が行われ、昨年より町が実施主体となる「新しい介護予防・日常生活支援事業」がスタートし、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられるよう地域全体で高齢者を支え、高齢者自身も自らの持つ能力を最大限生かして、要介護状態となることを予防するため、従来から実施している「高齢者いきいきセンター事業」や「地域まるごと元気アップ事業」等の介護予防事業を積極的に実施していきます。

また、昨年４月より社会福祉法が改正施行され、社会福祉法人の事業運営の透明性の向上や地域における公益的な取り組みの実施等が強く求められ、社会福祉協議会としても人材の確保や財政運営も厳しい状況ではありますが、役員・職員一丸となって公益的な福祉サービスが提供できるよう努力して参りますので、尚一層のご支援とご協力を賜ります様宜しくお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ新年のご挨拶とします。

賀正

副会長	仲谷博文	理事	澤田雅実
副会長	金盛勇松	理事	石山　修
常務理事	竹部　隆	理事	大石久子
理事	柏原定和	監事	蝶野久雄
理事	大野勝治	監事	竹部厚子
理事	美勢恒子		

第41回 東川町社会福祉大会を開催しました

◆式典と福祉作文の発表・旭川永嶺高校 吹奏楽局 演奏◆

式辞を述べる桑原社協会長

第41回東川町社会福祉大会が11月25日、東川町農村環境改善センター大ホールにおいて約200名の町民の参加のもと盛大に開催されました。

始めに式典を行い、社会福祉関係物故者のご冥福を祈り黙とうを捧げた後、大会長の桑原良一から式辞がありました。

その後、社会福祉関係者のご功績のあった方々に対して表彰状並びに感謝状の授与が行われた後に、松岡町長と大澤副議長から祝辞をいただきました。

祝辞を述べる松岡町長

続いて東川小学校・東川第三小学校・東川中学校・旭川福祉専門学校の代表４名から福祉作文の発表がありました。

「福祉」は特別なものではなく、わたしたちの生活そのものであって、周りの困り事を「私ごと」として考えることが大切だということ。そして、あいさつという当たり前のことが人と人をつなぐ架け橋になるということなど４名の純粋で優しい気持ちが伝わってくるすばらしい発表でした。

旭川永嶺高校吹奏楽局のみなさん

式典後は、旭川永嶺高校吹奏楽局の皆さんによる演奏がありました。

座奏と踊りながらのエネルギッシュな演奏（ダンプレ）に観客席からたくさんの笑顔が溢れていました。

すばらしいダンスと演奏に小さなお子さんもノリノリ！！

前に出て行き喜んでいる姿もありました。

【 表彰状・感謝状贈呈 】

●東川町社会福祉協議会会長表彰

＊表　彰　状

◎シニアクラブ連合会役員　三田　宗由

◎社会福祉協議会職員　室林　亮子

＊感　謝　状

◎ボランティア実践者　山田　洋子、若松　良子
由川　弘美、川元　節子
平田　節子

社協会長表彰の由川様と川元様

●北海道共同募金会会長感謝状

◎募金功労者　中原　京子

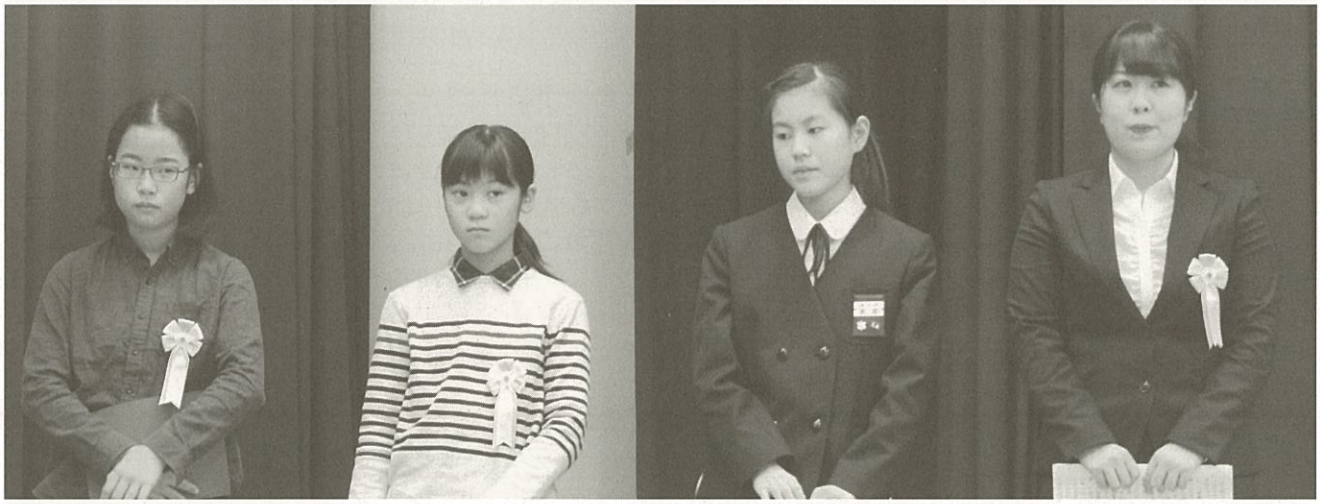
◎募金功労団体　東川町赤十字奉仕団
東川町農業協同組合
東川ライオンズクラブ
旭川福祉専門学校自治会

社協会長感謝状の旭川福祉専門学校自治会様

●日本赤十字社東川町分区長感謝状

◎奉仕活動功労者　山口三紀代、直野　栄子
桑原　節子、畑中あや子　（敬称略）

福祉作文の発表



「障がい者を支える福祉」

東川小学校　6年
竹内汐織

今回、この作文を書くにあたり、改めて、「福祉」とは何かを調べてみました。辞書によると、「幸せや豊かさを意味する言葉であり、すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供する考え方」と書いてありました。障がいがあってもなくても、すべての人々が幸せに暮らせることを大切にしたいという考え方であることがわかりました。

では、障がい者の暮らしを支えるものは何でしょうか。それこそが福祉だと思います。実は、私の姉も障がい者で、福祉に支えられている人の一人です。姉は、今、高校一年生で旭川養護学校に通っています。姉は、自分の意思を言葉や身振り手振りで人に伝えたり、自分の思い通り、体を動かしたりすることができません。でも、その部分を福祉にたずさわる方々がサポートしてくれたり、私たち家族がサポートしたりして身の周りの世話などをします。

私が姉と福祉の関わりを通してわかった事は、福祉は、障がい者のかかえている大きな負担をできるだけ小さくしてくれるという事です。家族にとっても負担はありますが、福祉にたずさわる方々が作ってくださった少しの時間を自分の時間としてすごすことができるのです。時々、福祉の方々が姉をお風呂に入れてくださいます。その時間も父母にとっては大切な時間となります。毎日、ほとんどが姉につきっきりですが、福祉というものが家族の負担を軽減してくれます。福祉とは、障がい者と支える人の間になくてはならない存在なのではないかなと私は考えます。私たち家族全員にとって必要なものだと、改めて感じています。

姉、私、そして私の家族は福祉によって支えられ、幸せに暮らしています。私たちは、福祉、または福祉関係の活動をされている方々に感謝したいです。同時に、皆が幸せに暮らせるように障がい者の事を理解し、皆がお互いに歩みよる気持ちや態度を持てるようになってほしいと願っています。そのためには、まず私自身が、さらに福祉について理解を深め、小さな行動を一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。

「つながりができる取組」

東川第三小学校　6年
奥原小春

みなさんは地域の方と接する機会はありますか？

今の社会は高齢者が多くなり、子どもの数が減ってきています。また、大きな町へ若者が行ってしまい、他の町では若者が少なくなってきてしまっています。となり近所や家族同士のつながりがうすくなってきていて、孤立して生活している家族が多いと聞きます。

人と人との関わりで、地域の人とどう接したら良いでしょう。私たち第三地区では、小学校を中心とした地域との行事や交流をしています。

一つ目は、あいさつです。三小っ子は、「あいさつ日本一」をめざして、しっかり大きな声であいさつをすることを心がけています。学校の中だけではなく、地域の方々にも行っています。そうすることで、地域の方々に顔を覚えてもらうことができ、直接話すきっかけができます。

二つ目は、九月に「ふれあい祭り」という行事があります。ふれあい祭りは、三小の畑で野菜を作り、その野菜を使って料理をして、地域の方々に食べていただく行事です。畑で作る野菜の植付け、草取り、収穫の際に、地域の方に手伝ってもらうこともあります。収穫した時は、たくさんできたという達成感がありました。また、料理を食べてもらい、多くの方に「おいしい！」といっていただいたときには大変うれしかったです。

他にも三小の運動会は、児童が競技するだけではなく、保護者や親せき、地域の方にも来てもらい、協力して行う競技があります。また、大人が参加する競技もあります。大人の参加する競技はチームが区ごとに分かれているので、三小のみんなは自分の住んでいる区を一生懸命に応援します。三小っ子サポーターという児童の競技では、地域の方々に協力してもらい、借り人競争を行います。とても楽しくふれあっています。

このような行事を通して、すごく良いと思ったことは、地域の方と深いつながりを持つことができるということです。そのおかげで、登下校の時に安心して歩けたり、学校の行事にもたくさん協力してもらったり、大変助かっています。私は、これらの活動を他の地域でも取り組んでほしいと思いました。そうすることで、地域と深いつながりができ、いろいろなことに大勢の人で協力できると思うからです。

私も大人になったら、三小っ子の地域の方のように、子ども達にあいさつをしたり、困っていたりしたら声をかけて協力してあげたいです。また、登下校の時、子ども達が安心して歩けるような工夫を考えたいです。そしてさらに、子どもにも頼られるような大人を目指し、地域の方々と協力して、深いつながりができるような取組をしたいです。

「障害者への思い」

東川中学校　1年
飯塚若菜

みなさんは、障害者についてどれくらい知っていますか。といっても、健常者にとって障害のある生活というのは想像できないものです。障害の種類は、目が見えなかったり、耳が聞こえなかったりなど約56種類もあります。みなさんが見て分かるような障害は理解できると思いますが、心の面での障害はその本人にしか分からず、みなさんが理解するのは難しいと思います。「自分は障害者ではないから関係ない」といって他人事のように思っている人が中にはいるのではないでしょうか。しかし、厚生労働省によると「20人に１人以上が障害者」という結果がでたそうです。さらに、「身体障害者数は336万人、知的障害者数は55万人、精神障害者は303万人、総計724万人」という結果もでたそうです。そう考えると、私達にとって身近な問題であり、障害のある人を理解し、配慮のある接し方をする必要があると思います。

私も実際あまり障害者をみたことがなく、他人事のように思っていましたが、ある事がきっかけで障害者に対しての気持ちが変わりました。

去年、7月26日。神奈川県相模原市の知的障害者施設「やまゆり園」で、職員を結束バンドで拘束し、入所者の上半身を次々と刺し19人が死亡。重傷の20人を含む負傷者26人が病院に搬送されたという事件をおぼえていますか。私はテレビでこのことを見た時、とても悲しくなったと同時に怒りがこみ上げてきました。殺人を犯した犯人は、意思疎通のできない障害者の殺害を目的に刺したのです。さらに、「障害者なんていなくなってしまえ」と供述。この一言に私は怒りが爆発しそうでした。なぜ、この世にはこんなことをする人がいるのかとても不思議に思います。

また、2015年に千葉県で行った、スーパーマーケットにある「障害者用駐車場」の利用状況を調査したというサイトがありました。気になったので見てみました。健常者の利用はショッピングモールなどでも見かけますね。「すぐにもどるから･･･」「他にとめるスペースがなかったから･･･」というのは甘い考えです。なんと８割の人が健常者の利用だということが判明しました。一番衝撃的だったのが、身体障害者ということを表す「クローバーマーク」や「車いすのマーク」のシールが百円ショップにも売っているそうです。とてもびっくりしました。そんな簡単に手に入ってしまうことに少し驚きました。

最近では、ネットで障害者を差別する書き込みがあります。みなさんの周りには、障害者に対して差別的な言動はありませんか。私は実際、そのような事を見たことがあります。本当に許せません。少しだけ足が悪いとか体の自由がきかない、心の病気を持っているだけなのに「見た目」だけで判断し、差別する人には、疑問をもってしまいます。

この文を読んで、心が動いた人や役に立ちたいと思った人が今後増えてくれたらいいなと思います。役に立ちたいと思った人は、「私になにかできることはないか」と思いませんか。私達にできることは、まず、困っている時には率先してお手伝いをするということを心がけていれば、いざというときに、パッと自然に動けて役に立つことができるのではないでしょうか。さらに、お手伝いできたときには、相手にとってもいい気持ちになれるし、自分もいい気持ちになれると思います。

私と同じように何か役にたつことができないだろうかと考えてくれる人が1人でも増えてくれたら、よりよい世の中に一歩でも進むことができるのではないでしょうか。障害者への理解を忘れず、お互いに人格や個性を尊重しあい、ともに生きていく社会になることを私は願っています。

「東川町で育んだ福祉の心」

旭川福祉専門学校　介護福祉科　2年
吉田　舞

私が東川町に初めて訪れたのは高校１年生、旭川福祉専門学校の学校見学の時です。その時の私は「町の雰囲気があたたかくて、なんて落ち着く町なんだろう」という印象を受けました。

私はその頃進路に迷っていました。人の役に立つ仕事に就きたいと考えてはいましたが具体的に自分が何をしたいのかが分かりませんでした。し

かし地元の紋別市で行われていた介護施設でのボランティアに参加し、介護の仕事に興味を持ち始めたことが介護福祉士を目指す第一歩となりました。その後は他のボランティアや旭川福祉専門学校の体験入学に何度か参加しました。介護について知るたびに介護福祉士になりたいと強く思い、専門学校で知識や技術を学びたいという理由で昨年４月に旭川福祉専門学校の介護福祉科に入学しました。

入学と同時に東川町国際交流会館での生活が始まりました。東川町で暮らしていく中で町のあたたかさが雰囲気だけではないということが分かりました。それは寮生活の中で心あたたまる場面があったからです。

休日、買い物に町へ出かけると、町民の方が笑顔で「おはよう」と挨拶をしてくださりました。犬の散歩をされている方と少しお話をしたこともありました。町を歩いている中で見知らぬ方から挨拶をされた経験がなかったため少し驚きましたが、挨拶ひとつでこんなにあたたかい気持ちになれるんだと思いました。私が慣れない地で２年間こうして安心して過ごせているのは東川町のあたたかさに支えられてのことと思います。

私が通っている旭川福祉専門学校では２年間、国家資格である介護福祉士を目指して様々な活動や授業があります。１年生の時の旭岳登山研修は東川町で過ごしていなければ体験できなかったと思います。私たちは学校周辺を何度も歩いて体力を養い、当日に備えました。当日は歩行練習を活かし、伝言をして全員で支え合いながら頂上にたどり着くことができ、クラスの絆が深まったように感じました。この研修で、自分が辛いときは支えてもらい、周りの人が辛そうなときは自分も支えるということが大切だと実感しました。

その他にも、東川町で過ごしていなければ気が付かなかったことがあります。一つめは水、お米、野菜などのおいしさです。大雪山の雪解け水が地中でろ過され、その水を生活用水として使用していると知った時は驚いたし、雄大な自然があるからこそ頂ける大地の恵みに感謝し、大切にしなければならないと感じました。二つめは留学生の皆さんとの交流があるということです。私たち旭川福祉専門学校の学生は学校や寮で留学生の皆さんと会話を楽しんだり、共通の趣味で盛り上がったり、一緒に郷土料理を作ったりして交流しています。卒業までの間、この貴重な環境に感謝しながら過ごしていきたいです。

学校の授業の中では中心になっているのが実習です。11週間の日程を３回に分けて行います。私は３回とも泊まり込みで実習をさせていただきました。中でも印象に残っているのは第３期です。第３期は一人の利用者さんを担当させていただき、ケアプラン作成に取り組み、その方にとっての幸せとは何かを考えていく大事なまとめの実習です。利用者さんのことを知り、理解した上で私たちができることを考えていく難しさ、利用者さんとの関わりの中で見せていただいた笑顔や「ありがとう」という言葉は忘れられない大切な経験となりました。介護福祉士はただ利用者さんの食事や入浴、排泄などのお手伝いをさせていただくだけではなく、幸せに暮らしていただくためにはどうすれば良いかを考えていくやりがいのある仕事だと思います。就職先では大変なことがたくさんあると思いますが、初心を忘れず常に利用者さんの幸せを考えていきたいです。

学校生活の中で一番やりがいを感じたのは旭川福祉専門学校の学校祭である「福専祭」です。今年は42回目、10月14日と15日に開催され、テーマは「Be together as one」～心をひとつに～でした。私は実行委員長を務め、留学生の皆さんを含めた300名の学生と共に旭川福祉専門学校で学んでいることを町民の方々や施設の方々、先輩方にお伝えすることを目的に全員で協力して連日準備し、お迎えしました。私はテーマの心をひとつにというところに焦点を当て、全員が参加し、協力して心をひとつにできるよう取り組んでいきました。当日はたくさんのお客様がいらっしゃり、どなたも笑顔で楽しかったよと仰りました。福専祭を通して、みんなをまとめて協力することの大変さや一つの行事を作り上げることができたという達成感を得られました。

私が東川町で福祉を学んでいく中で、知識や技術よりも基本である挨拶が大事だということを改めて感じました。挨拶は人と人を繋ぐ一つのコミュニケーションツールであると思います。私は毎日たくさんの人と挨拶をするよう心掛けています。なぜなら顔を見合わせて挨拶することで「今日も元気そうだ」とその人の様子がすぐに分かるからです。福祉従事者を目指す者として、「今日の様子は昨日と違うな、どこか具合が悪いのかな」といった気付きはとても大切です。

たった一言ですが、挨拶をすることは人の安全を確認し、人と人とが繋がるとても重要なものだと考えています。近年のコミュニティはインターネットの中にたくさんありますが、昔は近所が主なコミュニティだったといえます。近所におすそ分けをしたり、近所で困りごとがあれば助け合うことが当たり前でしたが、今は違います。自動車やコンビニエンスストアなどが普及し、便利な時代になったからこそ近所づきあいが希薄化したと考えられます。また核家族化の影響があり、独居する高齢者が年々増加している現状で近所づきあいが希薄化すると孤独死などの悲惨な死に繋がる危険性もあります。地域が深く繋がることでそのような危険を防止することができると思います。そのためには、地域の方々との挨拶から始めてみることでコミュニケーションが取れ、地域コミュニティが活性化すると考えます。その点で東川町の方々が見知らぬわたしにさえ挨拶をして下さる心のあたたかさはこれからも大事にしていくべき素晴らしい出来事だと思います。

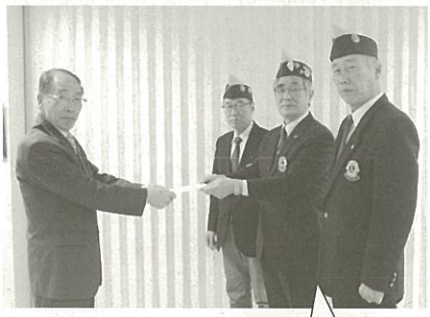
私は東川町で福祉を学ぶ中で地域の繋がりや大切さを学び、大事にしていきたいと強く感じました。４月からは福祉従事者として地元の特別養護老人ホームで働くことが決まりました。地域、人々との繋がりを大切にしていけるように努力していきたいと思います。

温かなご寄付をありがとうございます！

東川町赤十字奉仕団 様

今年は改善センターでの開催となったチャリテーバザー即売会。その収益金から募金をして頂きました。その他にリングプルもたくさん寄付して頂きました。

東川ライオンズクラブ 様



「地域福祉の推進のために役立てて下さい」と今年も歳末たすけあい共同募金に頂きました。

旭川福祉専門学校自治会 様

今年もたくさんの募金をして下さいました。多くの学生さんの優しい心が東川町の地域の皆様に広がっていきますね。

東川第一小学校 様

学校で集めてくれた募金とリングプルを寄付して頂きました。リングプルは４kgでした。小学生達の優しい気持ちは地域の人達に伝わっていきますね。

東川第三小学校 様

学校でたくさんのリングプルを集めてくれました。合計18.2kgでした。頑張って集めてくれてありがとうございます。

ー困った時に誰もが「助けて」と言える町にー　第２回

「Ｒさんの手」

「これからの私の人生に良いことがあるかしら」後部座席のＲさん（97歳）はひとり言のようにつぶやいた。思わず私は指で円を作り手を上げながら「あります」と伝えた。すると彼女は「ある?」と聞き返した。ルームミラーに映えるその目が一瞬輝く。（良い事ありますように）私は運転しながら願った。Ｒさんとの出会いは３年前、高齢者のひとり暮らしで近くに身寄りもないことから周りも気にかけていた。私も何度か尋ねたが、いつも玄関払い。外で姿を見かけ声をかけようとするが手で払いのけられる始末。耳も遠いようで何か伝えたくても近づくのは容易ではなかった。それでも短いやり取りの中で彼女の気位の高さと強い自立心を伺い知ることができた。20年前、田舎暮らしに憧れこの町に越して来た。ピアノを弾いたり、読書をしたり、家庭菜園も手がけたと。出会って2年目、96歳になった彼女は「まだくたびれてもいないけど、そろそろ老後の準備をしようかしら」と配食サービスの一部を受け取るようになった。この頃から物忘れが目立つようになり、痩せた体は買い物で往復3キロ歩くのに酷使された。それでも彼女は人に甘えようとはしない。その頑固な自尊心を侵さぬよう私は、つかず離れずの距離を保った。そして3年目、彼女は「もう家に食べる物がない」とある所に駆け込んだのである。連絡を受けて椅子に小さく腰掛けていた。思い切って施設の案内の話をしたところ「行って見ます」と即座に立ち上がった。数日後彼女から思いがけない話を聞かされる。今までの世界は警戒心強く、人からも毛嫌いされていると感じていた。ずっとひとりで暮らして来たのが辛かった。もう地べたの生活に戻りたくないです」と助けを求めるように手を出して来た。もうその手は人との関わりを拒み追い払う手ではなかった。

通りすがりのＳさんより

同じ町内に住む人どうしが助け合う

歳末たすけあい共同募金運動にご協力ありがとうございました!!

東川町で安心してお正月を迎えていただくため、今年も歳末たすけあい共同募金運動を実施しました。
町内で集まった募金は全額、町内で利用されます。

温かいご支援をありがとうございました！

今回は次の通り配分されました。

●ひとり親世帯にクリスマスケーキ		2,500円相当
●独居高齢者（75歳以上）におせち料理		3,000円相当
●家族介護者へ見舞金	要介護２	5,000円
	要介護３以上	10,000円

平成29年度 紙おむつサービス事業について

在宅での介護を必要とし、紙おむつを常時必要とする方に対し、１回　5,000円分の紙おむつ券を年２回支給することにより、介護者の負担を軽減します。

○対象者
・在宅で介護を受け、紙おむつを常時必要としていること
・介護保険の要介護認定で、要介護２以上であること
※介護施設等への入居者を除く

昨年10月より、今年度２回目の支給受付が始まっています。必要な方は当社協へお申し込み下さい。

お問い合わせ先
東川町社会福祉協議会
担当：村端　☎82－7505

この事業は、みなさまからいただいた赤い羽根共同募金から助成を受けて行っています。

後期高齢者医療の被保険者で1割負担の皆さまへ

東川町診療所で診察を受けたときの医療費分を助成する事業を行っています。該当される方は、当社協までお問い合わせ下さい。

お問い合わせは…
東川町社会福祉協議会　☎82－7505

探しています!!

先日、社協でイベントがあった日のこと。イベントに参加した方が帰ろうとすると、玄関の下駄箱に入れたはずの靴がありません。オレンジ色のショートブーツです。お心当たりの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい！情報お待ちしております！！
東川町社会福祉協議会　☎82－7505

「音楽でつながろう ひがしかわ新春音楽祭」のご案内

どなたでも参加できます!!

旭川大学高校吹奏楽部と旭川大学学生が、東川町に住むみなさん・留学生のみなさん・旭川大学、高校とのつながりをつくりたいという思いで、この度新春音楽祭を行なうこととなりました。
旭川大学高等学校吹奏楽部は、東川町在住の川島明人先生の指導のもと、全国大会金賞５回という輝かしい実績を持ちます。
当日は、受賞曲はもちろん、おなじみの演歌や歌謡曲も多数演奏します。
迫力ある演奏を会場で体感しましょう。お待ちしております。

【日　　時】平成30年1月27日（土）　14～17時
【会　　場】東川町文化芸術交流センター
（北町1-1-1・旧東川小学校）
【お問合せ】旭川大学クリスマス企画有志の会
代表　末岡 裕也
大学電話　0166-48-3121

町民公開講座のご案内

「住み慣れた家でいつまでも暮らしたい」という思いは、私たち誰もが抱く願いです。その願いを実現するために、東川町では在宅医療が進められています。
今回は、東川町の在宅医療を支える町立診療所の古川先生が講演してくださいます。是非みなさんご参加下さい。お待ちしております。

「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを」
講師　古川 倫也先生（東川町立診療所 副院長）

【日　　時】平成30年1月16日（火）　13～14時
【会　　場】東川町役場 保健福祉センター 集団検診室
【お問合せ】東川町社会福祉協議会
（担当：伊藤・遠藤）
電話 0166-82-7505

どなたでも参加できます!!

お知らせ

2月17日（土）に《ふれあいひろば》を開催します。今年もたくさんの方々に参加していただきたいと思っております。「おしゃべり！運動！食事！」をしてみんなで介護予防しましょう。詳細は後日お知らせ致します。お楽しみに～♬